神奈川自然誌資料 (25): 55-56, Mar. 2004

小田原沖で採集されたミツクリウロコムシのものと思われる巨大な吻

西　栄二郎・佐藤武宏・山本貴一・久保田三喜夫

Eijiroh Nishi, Takehiro Sato, Takakazu Yamamoto and Mikio Kubota:
A Possible Giant Proboscis of a Scale Worm Polychaete,
Eupolyodontes gulo, Collected from off Odawara, Sagami Bay

多毛類の中で，ウロコムシ目はその背側に鱗をもつことで特徴づけられる特異な種群である。中でもホガタウロコムシ科（＝ボウセキウロコムシ科）は大型の種を含み（西ほか，1999），日本沿岸からは4属4種が知られている（今島，2001）。同科の中でも，ミツクリウロコムシ *Eupolyodontes gulo* (Grube, 1855) は体長５０ｃｍを超え，その吻と思われる巨大な物体の記録もある。これまで相模湾や東京湾沖，和歌山，宮崎沖，徳島沖から知られている（内田，1996；西川，1997；西ほか，1999）。今回，小田原沖で，アマダイ釣りの針にかかった多毛類の吻はウロコムシ目のものと推測される．特にその巨大さと開口部の鞭状突起，顎の形態と歯状突起列の数などからミツクリウロコムシのものであると思われる。本種のこれまでの記録は三崎から江ノ島にかけてであり，相模湾西部からの初記録であった。以下に吻について報告する。

発見の経緯

2002年12月7日，久保田三喜夫は第三坂口丸にて神奈川県江之浦沖，水深90m（底質：堅めの泥）にてアマダイ釣りの際にウロコムシ類の吻と思われるものを釣り上げた。餌はオキアミ，針の大きさは7号であった。採集されたのは吻のみであり，採集された吻は，千葉県立中央博物館分館海の博物館に登録・保管されている（CMNH-ZW01646）。

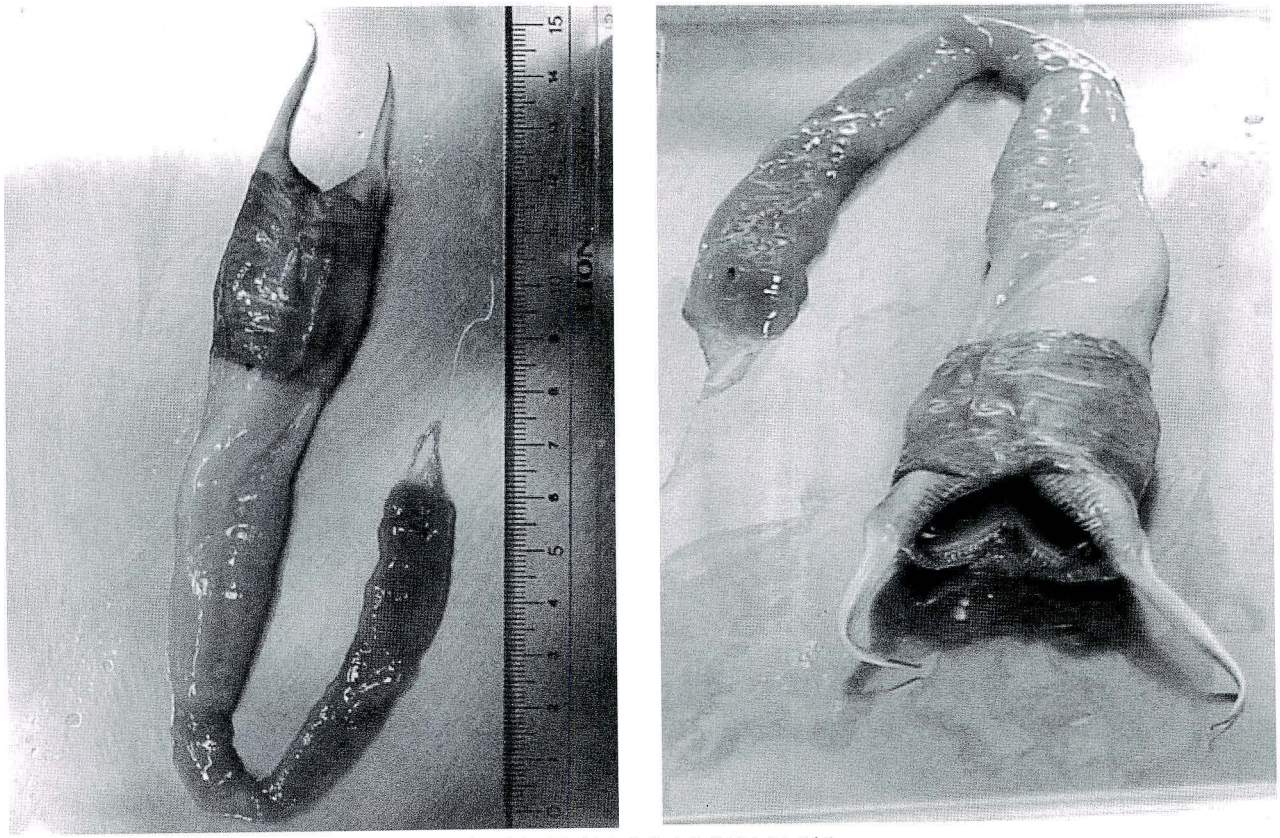

図1．ミツクリウロコムシのものと思われる巨大な吻．側面図（左）と前方から見た図（右）．

吻の記録

吻は全長約１２０mmの細長いメガホン状で，後半部に口部に接続していたと思われる赤い表皮がある（図１）。２対の顎をもつ先端部の幅が約２５mm，厚さが約６mmである。前端には１対の鞭状の突起があり，長さ約２１mm，先端は細く尖る（図１）。吻の前端には４列（背腹にそれぞれ２列）のクチクラ化した歯状突起がある。それぞれの突起列には１９または２０個の隆起がある（図１）。２対の顎は大きく，茶褐色，長さ約１８mm，乳頭状の小突起の数は１７である。

考察

今回，小田原沖から採集された吻は，宮崎沖から採集された吻（長さ12ｃm，幅約３mm；西川，1997）とほぼ同じ大きさで，西ほか（1999）が徳島沖から記録した吻（長さ16ｃm，幅約３ｃm）より若干小さい。

ミツクリウロコムシはフェルト状の巣に棲み，その巣は「アマダイの巣」と呼ばれているという（谷津・内田，1972）。アマダイ釣りなどで，ミツクリウロコムシの虫体が釣れれば，これまで巨大な吻のみが海面にあがってきた謎が解明されるものと期待される。

謝辞

本研究の一部は（財）神奈川科学技術アカデミーからの助成を受けて行われた。ここに記して深謝したい。

参考文献

今島　実，2001．多毛類ＩＩ．542pp. 生物研究社，東京．

西　栄二郎・岡崎孝博・田辺　力，1999．徳島県沖から採集されたミツクリウロコムシのものと思われる巨大な吻．南紀生物，**41**(1):57-60.

西川輝明，1997．宮崎県沿岸で採集されたミツクリウロコムシ（？）の巨大な吻．南紀生物，**39**(1)：63-64.

内田紘臣，1996．巨大なウロコムシ．マリンパビリオン，**25**(1)：65.

谷津直秀・内田　亨，1972．内田亨監修動物分類名辞典，1411pp. 中山書店，東京。

（西：横浜国立大学教育人間科学部，佐藤：神奈川県立生命の星・地球博物館，山本：神奈川県水産総合研究所相模湾試験場，久保田：小田原市漁業協同組合）